

カレトラ配合錠

【この薬は？】

販売名	カレトラ配合錠 Kaletra Combination Tablets
一般名	ロピナビル・リトナビル Lopinavir・Ritonavir
含有量 (1錠中)	ロピナビル 200mg、リトナビル 50mg

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、「医薬品医療機器情報提供ホームページ」
<http://www.info.pmda.go.jp/> に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

- ・この薬は、抗ウイルス剤（H I Vプロテアーゼ阻害剤）と呼ばれるグループに属する薬です。
- ・この薬はH I Vプロテアーゼの働きを阻害することにより、感染性を持つウイルスの産生を阻害します。
- ・次の病気の人に処方されます。

H I V感染症

- ・この薬は、体調がよくなったと自己判断して使用を中止したり、量を加減したりすると病気が悪化したり、効きにくくなったりするおそれがあります。指示どおりに飲み続けることが重要です。

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

○次の人は、この薬を使用することはできません。

- ・過去にカレトラ配合錠に含まれる成分で過敏な反応を経験したことがある人

- ・次の薬を使用している人
ピモジド（オーラップ）、エルゴタミン酒石酸塩（クリアミン）、ジヒドロエルゴタミンメシル酸塩（ジヒデルゴットなど）、エルゴメトリンマレイン酸塩（エルゴメトリン）、メチルエルゴメトリンマレイン酸塩（メテルギンなど）、ミダゾラム（ドルミカムなど）、トリアゾラム（ハルシオンなど）、バルデナフィル塩酸塩水和物（レビトラ）、シルデナフィルクエン酸塩（レバチオ）、タダラフィール（アドシルカ）、ブロナンセリン（ロナセン）、アゼルニジピン（カルブロックなど）、リバーロキサバン（イグザレルト）、リオシグアト（アデムパス）、ポリコナゾール（ブイフェンド）、グラゾプレビル水和物（グラジナ）
 - ・腎臓または肝臓に障害がある人で、コルヒチンを使用している人
- 次の人は、慎重に使う必要があります。使い始める前に医師または薬剤師に告げてください。
- ・肝臓に障害のある人
 - ・血友病の人、著しく出血しやすい人
 - ・心臓に障害のある人、脈を遅くする作用をもつ薬などを使用している人
- この薬には併用してはいけない薬（○次の人は、この薬を使用することはできません。を参照）や、併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。

【この薬の使い方は？】

●使用量および回数

飲む量は、あなたの症状などにあわせて、医師が決めます。

通常、成人と体重 40kg 以上の小児の飲む量および回数は、次のとおりです。

[成人]

一回量	2錠	4錠
飲む回数	1日2回	1日1回

[体重 40kg 以上の小児]

一回量	2錠
飲む回数	1日2回

この薬は食事の有無に関係なく飲むことができます。

●どのように飲むか？

かんだり、砕いたりせずに、水またはぬるま湯で飲んでください。

●飲み忘れた場合の対応

決して2回分を一度に飲まないでください。

気がついた時に、1回分を飲んでください。ただし、次の飲む時間が近い場合は1回とばして、次の時間に1回分飲んでください。

●多く使用した時（過量使用時）の対応

いくつかの症状が同じような時期にあらわれた場合は、ただちに受診してください。

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

- ・この薬は、患者さんやそれに代わる適切な人が次の点について十分に理解できるまで説明を受け、同意してから使用が開始されます。
 - ・この薬はH I V感染症を根本的に治すものではありません。この薬を飲んでいても、病気の進行に伴うさまざまな症状があらわれたり、続いたりすることがあります。身体状況の変化があらわれた場合は全て医師に報告してください。
 - ・この薬を長く飲んだ場合の影響についてはわかっていません。
 - ・この薬を飲むことで、性的接触や血液などを通じて、他の人に対してH I Vを感染させにくくするかどうかについては分かっていません
 - ・医師の指示を受けずにこの薬の飲む量を変えたり、飲むことを止めたりしないでください。
 - ・この薬は他の薬との飲み合わせなどに注意する必要があります。現在使っている薬を全て医師に報告してください。また、新たに薬を使い始める場合はあらかじめ医師に相談してください。
- ・副作用の早期発見や薬の飲み合わせが安全であるかなどの確認のために定期的に血液検査などを行う場合があります。
- ・この薬を含めて、H I V感染症の薬によって体脂肪の分布の変化（胴体、肩、首に脂肪が増える、手足や顔の脂肪が減る）があらわれることがあります。
- ・この薬を含めて、H I V感染症の薬を飲み始めた後、免疫力が回復し、日和見感染などに対する炎症反応（発熱、下痢など）があらわれたり悪化したり、自己免疫疾患*（甲状腺機能亢進症、多発性筋炎、ギラン・バレー症候群、ブドウ膜炎など）があらわれたりすることがあります。
*自分自身の正常な細胞や組織に対して過剰な免疫反応が起こるため発症する疾患
- ・妊娠または妊娠している可能性がある人は医師に相談してください。
- ・授乳中の方は授乳を中止してください。
- ・セイヨウオトリギソウ（セント・ジョーンズ・ワート）含有食品はこの薬の効果を下げますので控えてください。
- ・他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を使用していることを医師または薬剤師に伝えてください。

副作用は？

特にご注意ください重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

重大な副作用	主な自覚症状
高血糖 こうけつとう	からだがだるい、脱力感
糖尿病 とうにょうびょう	水を多く飲む、尿の量が増える、からだがだるい、体重が減る、のどの渇き

膵炎 すいえん	胃・おなかの激しい痛み、吐き気、背中の痛み、嘔吐（おうと）
出血傾向 しゅっけつけいこう	歯ぐきの出血、出血が止まりにくい、あおあざができる、鼻血
肝機能障害 かんきのうしょうがい	皮膚が黄色くなる、嘔吐、白目が黄色くなる、尿の色が濃くなる、吐き気、食欲不振、かゆみ、からだがだるい
肝炎 かんえん	嘔吐（おうと）、からだがだるい、食欲不振、白目が黄色くなる、皮膚が黄色くなる、吐き気
徐脈性不整脈 じよみやくせいふせいみやく	息切れ、判断力の低下、脈が遅くなる、めまい、意識の低下、脈がとぶ、考えがまとまらない
中毒性表皮壊死融解症（TEN） ちゅうどくせいひょうひえしゅうかいしょう（テン）	関節の痛み、からだがだるい、全身の赤い斑点と破れやすい水ぶくれ（水疱）、発熱、食欲不振
皮膚粘膜眼症候群（ステイブンス・ジョンソン症候群） ひふねんまくがんしょうこうぐん	高熱、陰部の痛み、ひどい口内炎、唇や口内のただれ、発熱、中央にむくみをともなった赤い斑点、赤い発疹、まぶたや眼の充血、食欲不振、からだがだるい、結膜のただれ
多形紅斑 たけいこうはん	発疹やみずぶくれができる、関節の痛み、発熱

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	からだがだるい、脱力感、体重が減る、発熱、関節の痛み、高熱、全身の赤い斑点と破れやすい水ぶくれ（水疱）
頭部	めまい、意識の低下、考えがまとまらない
顔面	鼻血
眼	白目が黄色くなる、まぶたや眼の充血、結膜のただれ
口や喉	水を多く飲む、のどの渇き、嘔吐（おうと）、吐き気、歯ぐきの出血、ひどい口内炎、唇や口内のただれ
胸部	吐き気、息切れ
腹部	胃・おなかの激しい痛み、吐き気、食欲不振
背中	背中の痛み
手・足	脈が遅くなる、脈がとぶ、関節の痛み
皮膚	あおあざができる、皮膚が黄色くなる、かゆみ、発疹やみずぶくれができる、中央にむくみをともなった赤い斑点、赤い発疹、全身の赤い斑点と破れやすい水ぶくれ（水疱）
尿	尿の量が増える、尿の色が濃くなる
その他	出血が止まりにくい、判断力の低下、陰部の痛み

【この薬の形は？】

形状	<p>長いだ円形の錠剤</p>  <p>上面</p>  <p>側面</p>  <p>ボトル外観</p>
	色
長径	19mm
短径	10mm
厚さ	8mm
重さ	1.24g
識別コード	 KA

【この薬に含まれているのは？】

有効成分	ロピナビル・リトナビル
添加物	コポリビドン、モノラウリン酸ソルビタン、軽質無水ケイ酸、フマル酸ステアリルナトリウム、ヒプロメロース 2910、酸化チタン、マクロゴール 400、ヒドロキシプロピルセルロース、タルク、マクロゴール 3350、黄色三二酸化鉄、ポリソルベート 80

【その他】

●この薬の保管方法は？

- ・直射日光と湿気を避けて室温（1～30℃）で保管してください。
- ・子供の手の届かないところに保管してください。

●薬が残ってしまったら？

- ・絶対に他の人に渡してはいけません。
- ・余った場合は、処分の方法について薬局や医療機関に相談してください。

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

- ・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。
- ・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：アッヴィ合同会社

(<http://www.abbvie.co.jp/>)

くすり相談室

フリーダイヤル：0120-587-874

受付時間：9時00分～17時30分

（土、日、祝日、その他の当社休業日を除く）